

2010年度 代表事業①

事業名

9月度第二例会「未来学園例会」 ～ゆめキャンパス～

委員会

夢への道発見委員会
委員長：中森 延照

副委員長：小泉 博敬
副委員長：隆 和樹
幹事：松浦 高明



事業趣旨要約

子どもたちに仕事に関する「夢」をもつ楽しみを地域の大人と一緒に伝えます。そして将来の大きな可能性に気づき、その為に何が必要かを自ら考え実践する行動力を育みます。地域の様々な職業人を講師としてお迎えし、現在の仕事を志したきっかけ、実現に至る過程、仕事に対する情熱を体験と一緒に子どもたちに伝えていただきます。普段は講師をしない職業人の方々が、深く子どもたちと関わることができるよう、JCMメンバーがこれまでの経験を活かし、橋渡し役となるよう運営します。職業人としての大人とふれあい、自らの目標を具現化し努力の必要性に気づくことは、必ず子どもたちのたくましく生きる力を大きく育て、将来のこのまちの希望となります。また携わる我々も地域の大人として青少年に対する理解と「夢」溢れる地域づくりの貢献ができると確信します。

背景

- ・ 5周年を迎える(社)静岡青年会議所の、子どもたちに「夢」と「将来」について考える機会を提供する事業として青年会議所内及び教育関係者の間で大変期待されている事業だが、市民の認知度はまだ低い。
- ・ 「夢」や「目標」をもつことは子どもたちの成長に欠かせない大きな要素である。
- ・ 漠然と大きな夢を描ける子どもたちがいる反面、どうすれば夢が叶うかを知らない子どもたちが多く存在する。
- ・ 近年の青少年の生活環境においては、親をはじめ多くの地域の大人と接触し、将来について大人と一緒に考え、学習する機会が失われつつある。

効果

- ・ 講師の実際の話や体験を通して仕事の楽しさを知ると、将来の目標に向かって前向きに生きる気持ちを育む。
 - ・ 講師から失敗や挫折した経験伝えてもらうことで、長い間の努力の賜物とあきらめない気持ち、たくましく生きる必要性を理解する。
 - ・ 会員が運営に携わり、講師のサポートに取り組むことで、積極的に地域教育に関わり青少年への理解を育む。
- 「基本方針 たくましく生きる力を育む」の実現に関する事項
子どもたちのこれからの成長に大きく作用する「夢」をもつきっかけとなる事業を催し、その上であきらめない気持ちを持つことの大切さに気づいてもらうことで、たくましく生きる力を育む青少年育成事業の実践。

背景

- 背景 夢体験授業を行うことにより
- | | | |
|------------------|---|-----------|
| 夢を持つことは大切 | → | 可能性に気がつく |
| どうすれば夢が叶うかわからない | → | 夢の叶え方を考える |
| 職業人と接する機会が限られている | → | 仕事の楽しさを知る |
- 目標に向かって生きる事ができる

例会の流れ・目的

- 開校式 9:00～
1時限目 9:30～10:15
2時限目 10:25～11:10
3時限目 11:20～12:05
昼食 12:10～13:00
- 参加予定者
静岡市近郊の小学3～6年生(1000名)
クラスは1クラス20～30名程度。
- いま憧れている職業の人たちが先生になってくれるよ。先生の話聞いて、将来の仕事に対してゆめをもとう!そして体験をして仕事の面白さを知ろう!

達成検証

- ～ゆめを見つこう! いろんな仕事をやってみよう!～
大人になったらどんなお仕事がしたい? そうなるためには何をしたいの?
いろいろな職業のひとたちが、一日先生になってみんなの「ゆめ」をかなえる方法を教えてくれるよ!
サッカー選手・学者・博士・医師・食べ物屋・大工消防士・救急隊・パイロット・運転士・教師・料理人・警察官・パティシエ・保育士・看護師・動物飼育員・美容師・花屋
- 事業目的に達した点(対外): 子どもたちが夢をもち、前向きな気持ちをもつこと。子どもたちが、努力することの大切さを知ること。
事業目的に達した点(対内): 事業の運営に参加することにより、積極的に青少年教育に関り、地域への奉仕活動を実践すること。
- 「基本方針 たくましく生きる力を育む」の実現への効果
多くの参加者がこの事業を通して自身の未来を想像し、将来の職業に関する意識をはっきりと持つことができたと感じた。また、すべての講師から努力の大切さを伝えてもらうことで、アンケートにもあきらめずがんばろうという言葉が多く見られ、たくましく生きる力を育む効果が大きくあったと考える。

所見

- 本年度は1000名の参加児童を集めることができ、より多くの子供たちに夢をあきらめない気持ちと行動力の大切さを伝え、全4回の授業を通して夢をもつ事へのきっかけづくりが出来ました。しかし、参加者が増えた影響で例年以上に混雑が起きました。特に朝の受付時のラッシュでは配車の問題、講師への対応、総合案内の設置など上程時に意見を頂いていた部分でありながら迅速な対応が出来ず、関係者や会員の皆様にご迷惑を掛けてしまったと考えます。大きなトラブルもなく無事に終えることが出来たのは、サレジオ学園をはじめとする多くの関係諸団体ならびに関係者の皆様のお陰です。そして当日のおくぐりのトラブルを臨機応変に対応して頂いた会員の皆様のご協力あってこそだと考えます。ご協力頂いた全ての皆様に感謝申し上げます。
- 次年度への引継ぎ事項としては、これだけの事業を当日一発勝負で行うことはリスクがありますので会場や協力者の皆様のご理解を頂き、リハーサルを行うべきだと考えます。会員向けの説明会とは別に外部協力者の方々を含めた全体説明会を行えば、当日のトラブルや事業の運営面での準備ができ、多くのトラブルを防ぐ事ができると考えます。議案上程を通じて事業の目的を達成するためには万全の体制で当日を迎える必要があります。次年度は事前準備を更に重要視して頂き、事業を大成功に導きさらなる発展に努めて頂きたいと考えます。

目的

- 事業目的(対外)
- ・ 子どもたちが夢をもち、前向きな気持ちをもつこと。
 - ・ 子どもたちが、努力することの大切さを知ること。
- 事業目的(対内)
- ・ 事業の運営に参加することにより、積極的に青少年教育に関り、地域への奉仕活動を実践すること。

事業概要

1. 実施日時
平成22年9月12日(日) 9:00～12:00
2. 実施場所・会場
学校法人 星美学園 静岡サレジオ小学校・中学校・高校
3. 参加人数報告
対内: 計画人数 247人 参加人数 164人
対外: 計画人数 ども1000人、保護者300人 参加人数 子ども920人、保護者388人
4. 決算総額を記入(事業決算報告書は別紙にて添付)
2,387,474円



担当委員長Q&A

01 事業選定の理由、想いを聴かせてください。

2005年に未来学園事業に幹事として関わりました。その時は730名の児童を集めて事業を行いました。当時の委員長が1000名の目標を掲げていたのでその想を引き継ぎ、過去に作り上げたカタチを1000名の参加に広げたいと思いました。

02 メンバーをまとめる上で苦労した点を教えてください

スタッフ会議を重ね、議案を採ってから委員会メンバーに落とし込み全員参加で委員会を行いました。

03 事業を行う上で苦労した点を教えてください

安全面・交通手段等を加味し、1300人規模の人員を収容できる施設の確保に難渋しました。また、1000名の参加者を集めるのも苦労しました。市内の小学校にチラシを配布しただけでは集まらず、PTAなどの団体、るくるなど子供の集まる場所に配布し募集を募りました。

04 1年を通して一番苦労した点を教えてください。

仕事の時間と睡眠時間の確保に苦労しましたが、家族の支えがあったためJC活動に専念できました。

05 どれだけの会議を重ねました？

3日に一度のペースで会議を行っていました。

06 事業に協力してもらった企業・団体に対する想いを教えてください

無償で協力してくれた講師、快く施設を使わせてくれた小学校、また休日出勤で手伝ってくれた先生方、後援してくれた諸団体、募集に協力してくれたスポーツ少年団やPTA、子供会、るくるなどの施設、関わってくれたすべての方々に感謝しかありません。

取材全体としてのまとめ・感想

過去に幹事として携わっていた事業を自分が委員長となり受け継ぎ、当時の委員長の目標であった動員1000名を絶対に達成したいという担当委員長の心意気が伝わってきました。

07 事業の中で1番印象に残った出来事は何ですか？

子供同様に講師の方々も喜んでくれたことです。

08 1000名近い子供を参加させるという大きな事業です。他の委員会に振り分ける仕事も多かったと思いますが、どのようにしてまとめられたのでしょうか？

全体説明会を行いました。と同時に各委員会担当者への電話連絡、委員会回り、メールでの説明などを行い、協力のお願いを続けました。

09 様々な職業の方に講師をお願いするにあたり、苦労した事をおしえてください。

委員会メンバーで振り分けましたが、重なる講師やなかなかアポイントがとれない講師があり調整が必要でした。プロスポーツ選手などは日程が直前まで決まらず、参加の可否がぎりぎりまではっきりしませんでした。またこちらの事業の意図を講師にうまく伝える事が苦労しました。

10 参加する子供たちの成長だけでなく、参加した親御さんや教育関係者にとっても有意義なものとなったようですが、事業にかかわる方々すべてを巻き込み成功させた要因は何だったと思いますか？

これまで携わったJC、関係諸団体の方々の熱意によって、すでに未来学園が周知され、ファンが多いため成功したのだと思います。



取材前後での特に気付いた点

児童集めや講師の調整など苦労が絶えない中、家族の支えがあったからこそJC活動に専念できたという中森シニアの家族への想いの強さを感じました。